

～令和5年産麦類の特徴・次期作に向けて～

- 生育量は草丈・茎数ともに平年を上回って推移し、生育の進展が早くなりました。
- 「シラネコムギ」は穂数が少なく、子実重が平年を下回りました。
- 次期作に向けて、排水対策の徹底を図りましょう。

1 気象経過

(1) 越冬前 (10月～12月)

10月下旬の播種時期は、降雨がほとんどありませんでした。12月中旬を除いて、平年より高温多照の期間が長く続きました。

(2) 冬期間 (1月～2月)

1月上旬中旬は高温となりましたが、1月下旬以降は低温の期間が長く続きました。降雪量は少なく、根雪期間は短くなりました。

(3) 越冬後 (3月～6月)

期間を通して、高温多照で推移しました。3月第6半旬、5月第2半旬にまとまった降雨がありました。他の期間は平年並み～平年を下回る降水量となりました。

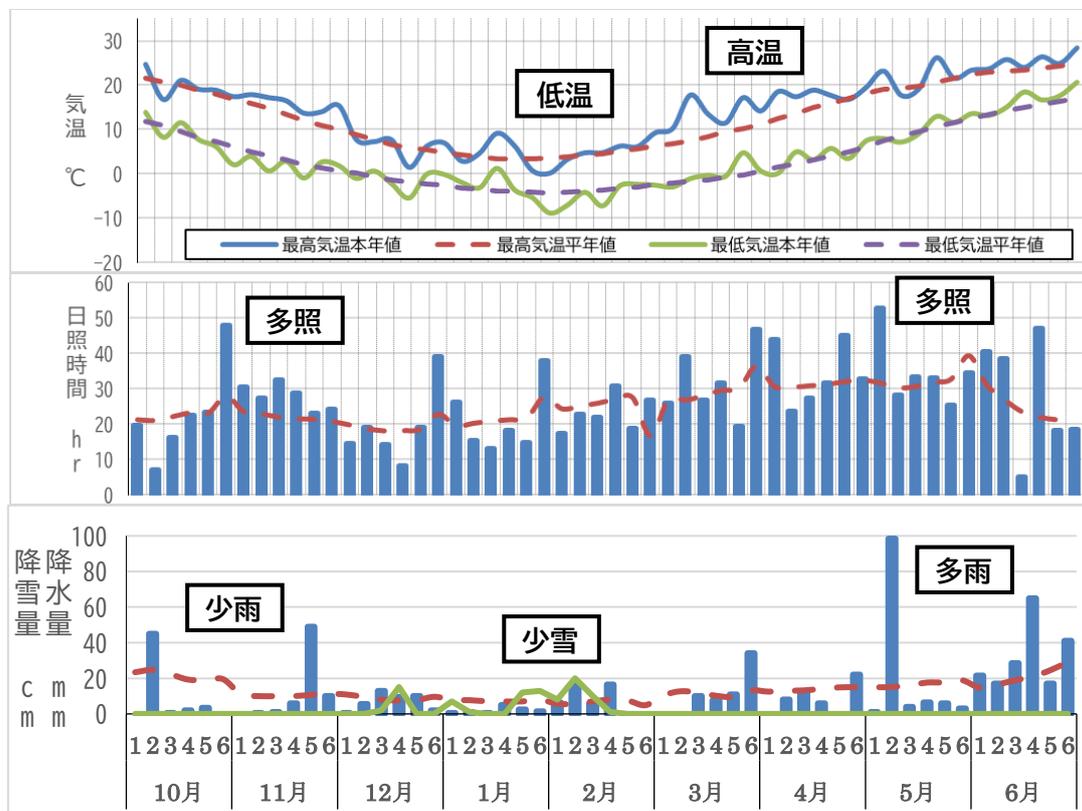


図1 気象経過 (古川アメダス)

※1 実線又は棒グラフが本年値、点線は平年値

2 生育概況

● 小麦「シラネコムギ」

(1) 越冬前～冬期間（10月～2月）

- ・播種時期は降雨がほとんどなかったため、播種日は平年より2日早い10月23日となりました。出芽はムラが少なく、良好でした。
- ・草丈は、期間を通して平年を上回って推移しました。茎数は、12月15日時点では平年を下回っていたものの、根雪期間が短く、冬期間に生育が旺盛となったことから、2月10日時点では平年比150%となりました。
- ・野鳥による葉の食害が散見されました。

(2) 越冬後（3月～6月）

- ・高温多照の期間が長く続いたことから、草丈・茎数ともに平年を上回りました。また、同様に幼穂長も平年を上回って推移しました。
- ・生育ステージは、平年と比較し、出穂期が10日、成熟期が8日早くなり、いずれも過去10年で最も早くなりました。
- ・成熟期調査では、稈長・穂長が平年並み、穂数は少ない結果となりました。
- ・収量調査では、千粒重・容積重は平年並み、子実重は平年を下回りました。

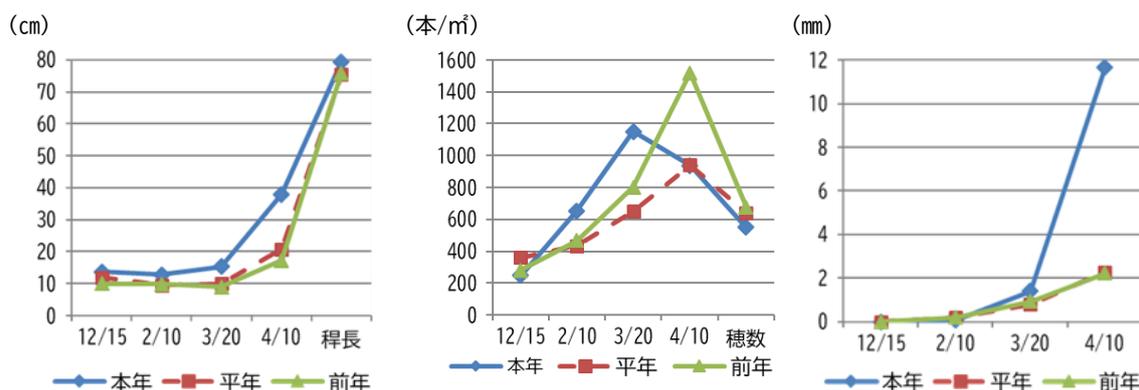


図2 草丈（左）茎数（中）幼穂長（右）の推移

表1 生育ステージ

地区名 品種名	区分	播種日	出穂期	成熟期
古川 シラネコムギ	本年	10/23	4/30	6/16
	前年差	7日早い	11日早い	8日早い
	平年差	2日早い	10日早い	8日早い

表2 成熟期・収量調査結果

地区名 品種名	区分	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m²)	千粒重 (g/千粒)	容積重 (g/L)	子実重 (g/m²)
古川 シラネコムギ	本年	79.4	7.6	551	34.3	845	423
	前年比	105%	110%	81%	88%	103%	71%
	平年比	105%	94%	86%	95%	106%	76%

※1 平年差・比は、過去5か年（平成30年～令和4年産）の平均値との比較

● 大麦「シュンライ」

(1) 越冬前～冬期間（10月～2月）

- ・播種日は10月15日と、播種晩限の10月20日より早い播種となりました。
- ・播種ムラによる生育ムラがみられましたが、生育量は確保できており、12月15日時点の茎数は、年内の目標である400～500本/m²を上回りました。
- ・野鳥による葉の食害が多く見られました。

(2) 越冬後（3月～6月）

- ・高温多照の期間が長く続いたことから、生育の進展が早く、出穂期は4月18日、成熟期は6月1日となりました。

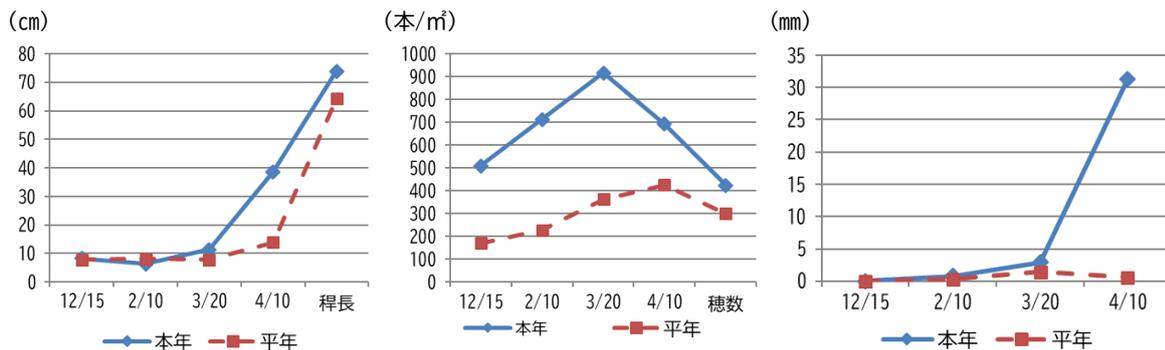


図3 草丈（左）茎数（中）幼穂長（右）の推移

表3 生育ステージ

地区名 品種名	区分	播種日	出穂期	成熟期
古川 シュンライ	本年	10/15	4/18	6/1
	平年差※	9日早い	13日早い	9日早い

表4 成熟期・収量調査結果

地区名 品種名	区分	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	千粒重 (g/千粒)	容積重 (g/L)	子実重 (g/m ²)
古川 シュンライ	本年	73.8	4.0	424	38.4	766	414
	平年比※	115%	106%	142%	105%	109%	77%

※1 図3、表3、表4の平年値・差・比は、三本木地区の「シュンライ」（平成25～29年産）の平均値との比較であり、参考値として掲載している。

3 播種前の管理 ～排水対策～

- ・麦は湿害に弱い作物です。明きよと暗きよを適切に施工し、ほ場の排水対策をしっかり行いましょう。
- ・湿害は土壌中の酸素の欠乏が引き金になり、根の呼吸作用の阻害と土壌の還元化による有害物質の発生によって根の活力低下につながります。

表5 麦類における生育時期別の湿害

生育時期	湿害の影響
播種直後	発芽不良、発芽遅延、不揃い
出芽後期～分けつ期	根の伸長抑制による浅根、分けつの減少、葉の黄化、生育遅延
節間伸長期～出穂	根の機能障害や弱小分けつの枯死、幼穂生育阻害による穂数の減少、穂の縮小化
出穂期以降	充実不良のため千粒重が軽くなり、収量・品質が低下、稈の伸長抑制

(1) 明きよの施工

- ・ほ場の周辺とほ場内 5～10m間隔に 1 本の割合で、明きよを掘り、ほ場外に排水できるようにしましょう。その時に、明きよは排水溝に必ずつなげましょう。

(2) 補助暗きよ・心土破碎の施工

- ・補助暗きよ（弾丸暗きよ、穿孔暗きよ等）は額縁明きよと本暗きよにつないで排水路を作りましょう。
- ・心土破碎は下層部に形成される耕盤層に亀裂を入れることで、ほ場の透・排水性を向上させる効果があります。サブソイラ等を用いて、地下水位の上昇を防ぎましょう。



写真1 明きよと排水溝をつなぐ



写真2 心土破碎後のほ場

◆◆◆◆◆秋の農作業安全確認運動実施中（9月1日～11月30日）◆◆◆◆◆

農業機械作業による死亡事故割合が高い状況を踏まえ、①ほ場周辺の危険箇所の確認・改善及び危険回避行動の実践、②シートベルトとヘルメットの着用、③トラクターへの安全フレーム・安全キャブの使用の呼びかけを行います。

重点推進テーマ 「徹底しよう！農業機械の転落・防止対策」

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右のQRコードを読み取ってください。

